文部科学省

【令和3年度版】

「青少年を取り巻く有害環境対策の推進」
委託事業事例集

令和4年3月
総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
安全教育推進室

＜目　　次＞

○有害環境から子供を守るための推進体制の構築（ネットモラルキャラバン隊）

・東京都　（株）メディア開発綜研

○有害環境から子供を守るための推進体制の構築（ネット対策地域スタートアップ事業）

・石川県　小松市教育委員会

・京都府

・兵庫県　（公財）兵庫県青少年本部

○青少年教育施設を活用したネット依存対策推進事業

・兵庫県　（公財）兵庫県青少年本部

・岐阜県

・静岡県

・東京都　（独）国立青少年教育振興機構

○依存症予防教育推進事業

・沖縄県　（一社）おきなわASK

・東京都　（NPO）全国薬物依存症者家族会連合会

・東京都　（株）シード・プランニング

（A4見開き2頁）

ネットモラルキャラバン隊

低年齢層、小・中学生、高校生の子供を持つ保護者を対象とした、青少年をインターネットのトラブルから被害から守るために、まずは保護者自身の情報モラルやネットリテラシーの向上を促すことを目的としたしたシンポジウムを全国で開催する。

（実行委員会の構成）

実行委員長：竹内和雄
兵庫県立大学　環境人間学部　准教授
委員：上沼紫野　虎ノ門南法律事務所　弁護士
江口研一　電気通信事業者協会（TCA）業務部長
尾花紀子　ネット教育アナリスト
小原良　安心ネットづくり促進協議会 普及啓発広報委員
加藤寿一　秋田市教育委員会　委員

事業の概要

主に保護者を対象とした情報モラルに関するシンポジウムの開催
・対象：全国3か所の保護者
1低年齢層（幼稚園、こども園）の保護者向け1か所
2小・中学生の保護者向け1か所
3高校生の保護者向け1か所
・実施地域：全国3か所
1兵庫県（低年齢層の保護者向け）
2長野県（小・中学生の保護者向け）
3秋田県（高校生の保護者向け）
・実施主体　全国の各PTA様
・対象者　保護者および学校・教育関係者

事業のねらい

新型コロナウイルスの感染拡大により、インターネットを取り巻く環境は大きく変化した。日本国内においてもリモートワークやオンライン授業が当たり前となり、緊急事態宣言下では年齢を問わず、在宅時間が増えることにより、今までのネット利用における啓発活動の前提が大きく変わった。インターネット上のコミュニケーションは多様化する一方で、我々利用者はネット上に潜む危険に気付かないまま利用を続けている。青少年をそうしたトラブルか守るためには、家族間でのコミュニケーションはもとより、保護者自身が青少年のインターネット利用への理解を高めていく必要がある。青少年が加害者にも被害者にもならないために、まずは保護者の情報モラルを向上させるべく、そのきっかけ作りとして本事業を開催するものである。

事業の内容

令和3年度の本事業は3か所の開催のうち1か所は動画配信、2か所が完全オンライン開催となった。
1か所目となった低年齢層の保護者向けの兵庫県は、会場に関係者と保護者代表が集まり、動画撮影を行った。撮影した動画は後日YouTube上にアップされた。
2か所目の小・中学生の保護者向けの長野県は当初、関係者を会場に集め、会場からのライブ配信を予定していたが、新型コロナウイルス（オミクロン株）の感染拡大に伴い、完全オンラインへと急遽変更を行った。
3か所目の高校生の保護者向けの秋田県については、当初リアル開催を準備していたが、こちらも完全オンラインへと変更した。

（2021年12月6日：兵庫県での撮影の様子）

令和3年度開催地

2021年12月6日（月）（収録日）	2022年1月23日（日）	2022年1月29日（土）	2022年2月22日（火）
兵庫県	長野県	秋田県	東京都
（低年齢の保護者向け）	（小・中学生の保護者向け）	（高校生の保護者向け高向け）	ネット安全安心全国推進フォーラム

本事業の問合わせ先
株式会社メディア開発綜研　〒104-0031 東京都中央区京橋3-14-6 斎藤ビル2階　TEL:03-6263-2133
担当：西川（nishikawa@mdri.co.jp）

POINT1 開催方法変更への対応

長野県および秋田県での開催は開催日の1週間前に急遽完全オンラインへと変更された。しかしながら、オンラインでも開催可能とするために、事前準備をしていたため対応できた。

POINT2 アーカイブ動画の活用

リアル開催の方が熱が伝わることが想定されていたが、当日参加できなかった人や新たに関心を持った人、参加したが資料などを詳しく見たい人などにとって、アーカイブ動画を活用することで、訴求を深めることができるようになった。

POINT3 事前アンケートの活用

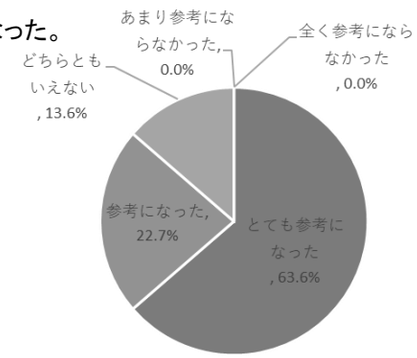
兵庫県の開催において、事前に開催地の保護者に対してアンケートを行った。シンポジウムではその結果を踏まえて、講演をしていただいた。参加者が当事者としてより考えるきっかけとなったため、今後も可能な限り行いたい。

1兵庫県（低年齢層の保護者向け）
兵庫県での開催は、現地に関係者及び保護者代表30名ほどが集まり、動画撮影を行った。インターネットの問題は低年齢化が進んでおり、多くの人が関心を持って参加していた。独自の事前アンケートなども活用した講演だったため、積極的な発言があり、大いに盛り上がった。低年齢層の保護者がすでに当事者として、意識を高く話し合いの場として、有意義な時間となった。12月27日～3月11日までの期間、YouTube上での公開を行っている。
2長野県（小・中学生の保護者向け）
長野県は当初、会場（長野県）に講師や登壇者を集め、そこからのライブ配信を予定していた。しかしながら、年明けからのオミクロン株の流行により、急遽完全オンラインへと切り替えることとなった。配信対応については、当初会場からの配信を依頼していた事業者に対応を依頼、問題なく配信を行うことができた。
また、長野県の保護者の皆様も、インターネットの課題にまさに直面している保護者ならではの発言が積極的になされ、関心が高いことが伝わってきた。
3秋田県（高校生の保護者向け）
秋田県はリアル開催をぎりぎりまで検討していたものの、やはり急遽オンラインへと切り替えることとなった。周知に関しては、現地事務局に協力いただいた。高校生の保護者はすでに多くがスマートフォンを所持しているケースが多いが、当日の質問からは基礎的な疑問点などをまだ、保護者自身が理解できていないケースも散見され、啓発活動の重要性を再認識しさせられた。

（1月23日：長野県のライブ配信の様子）

事業のねらいに対する成果

参加者の多くに参加したシンポジウムについては評価をいただいている。
3か所の合計で、「とても参考になった」「参考になった」の合計は86.3%となった。
自由回答でも、「他の保護者の方々にも実際の講演会に参加して頂きたいです」「親もどこからこのような、情報をとればよいのかわからないのが現状です。今回、とても勉強になりました」「アーカイブにして多くの方に見ていただきたいと思いました。」といった意見が寄せられた。このことからも、概ね参加者には好評だったといえるだろう。もっと多くの人にシンポジウムを聞いてもらいたいとの声が、参加者からあがることは、地域での啓発活動のきっかけとなる、という本事業の目的とも合致しており、今後も開催地域と連携を深めることで、さらなる啓発活動の発展に寄与することができると考える。



課題と今後の展望

概ね評価いただけたシンポジウムであるが、今後の課題としていくつかあげることができる。①講師の育成②ハイブリッド開催への対応③アンケート対応の3つだ。
①本年度事業は2か所を実行委員長竹内先生、1か所を尾花委員に務めていただいたが、対象や専門分野を考えると、講師の選択肢が少なくなってしまっていることは否めない。若い世代の講師育成は急務といえるだろう。時間がかかる取り組みであるが、人選を含め検討する必要があるだろう。次年度は、そうした講師候補を対象としたシンポジウム開催も検討に値するのではないか。
②動画撮影および完全オンラインの開催となった本年度事業は、視聴数は例年よりも少なくなっており、数字上では残念な結果となった。やはりリアルでの開催は今後も重要な開催形式だろう。一方で、ライブ配信やアーカイブ配信の利便性は否定できない。そのため、今後はハイブリッド開催も検討していく必要がある。その際、リアルでのオペレーションと配信のオペレーションをスムーズに行うためにも、専門事業者の協力が不可欠になる。
③視聴数同様にアンケート回答数も数が少なくなってしまうことは動画視聴やオンライン配信の弊害といえるだろう。参加者の負担回避にアンケート方法を検討し、改善する必要があるだろう。

（A4見開き2頁）

小松市小中学生サミット（石川県）

小松市では、市内全小中義務教育学校の代表児童生徒が集まり、いじめに関する問題を中心に、インターネット上の人間関係も含めたよりよい人間関係の構築について意見を交わし、提言等を発信していく「小松市小中学生サミット」を開催することとした。その取組を通じて，よりよい人間関係を築くためにはどうしたらよいのか（いじめの未然防止及びインターネットを介したいじめを含む）を考え，児童生徒の自治的意識や主体性の向上を図る。

【実行委員会の構成】
- 小松市内小・中・義務教育学校32校の代表児童生徒
- 小松市内小・中・義務教育学校32校の担当教員
- 小松市PTA連合会
- 小松市教育委員会　教育研究センター
- 小松市教育委員会　学校教育課

（有識者）
- 兵庫県立大学環境人間学科　竹内和雄　准教授
- ソーシャルメディア研究会　学生

事業の概要

①市内小中学生を対象にいじめアンケートの実施
　対象：市内小学4年生～中学3年生（合計 5,717名）
②小中学生サミット実行委員会の開催（全2回）
　参加者：市内小中義務教育学校32校の代表児童生徒（105名）
　　市内小中義務教育学校32校の担当教員（32名）
③小松市小中学生サミット（フォーラム）の開催
　参加者：小松市長（代理：小松市副市長）、市PTA連合会、小松市議会議員、市内小中学生、市内小中教員，市教育委員会関係
　　合計192名参加

事業のねらい

小松市では、昨年度よりサミットのテーマを「より良い人間関係を築くためには、どうしたらよいのか」とし、インターネットトラブルだけでなく，日常の人間関係構築も含めた内容について小中連携して話し合いを行った。その中では、「いじめ」についての話題を避けて通ることができず、今年度の取組の焦点とした。「いじめ」の原因が全国的に多様化しており、最近は、インターネットを介した「いじめ」が起きている。児童生徒自身が、身近な所で起きている自分たちの問題であることを認識し、主体的に問題解決に取り組むことで、サミットのテーマについて考えを広げ深めることができる。そこで、市内の小中学校の代表児童生徒が集まって意見を交わし、提言等を発信していくフォーラムとして，「小松市小中学生サミット」を開催することとした。

小松市内の小中学生からなる実行委員会で方策を立て、市内小中学校に活動を発信していくことにより，児童生徒の自治的活動の活性化を図る。

事業の内容

①市内小中学生を対象にいじめアンケートの実施
◇実施時期：令和3年5月
◇対象：市内小学4年生～中学3年生（合計5,717名）
◇内容：いじめ等に関する意識及び実態把握、インターネット使用時間、生活習慣等について

第1回実行委員会
（オンラインでのようす）

②小中学生サミット実行委員会の開催（全2回）
参加者：市内小中義務教育学校の代表児童生徒（105名）
　　市内小中義務教育学校の担当教員（32名）
　　小松市教育委員会関係者
アドバイザー：兵庫県立大学　環境人間学部
　　竹内和雄 准教授
　　ソーシャルメディア研究会　学生

第2回実行委員会

■第1回実行委員会（オンラインによる開催）
日時：令和3年7月30日（金）
場所：各小中義務教育学校，小松市教育研究センター，兵庫県立大学
内容：◇実行委員の自己紹介、実行委員の交流
　　◇各学校の取組状況を中学校区で報告，取組内容についての協議

本事業の問合わせ先
事務局：小松市教育委員会　教育研究センター
　　石川県小松市小馬出町1番地　小松市教育研究センター
　　TEL：0761-24-8174　FAX：0761-23-7974　E-mail：kec-k@kec.hakusan.ed.jp

POINT1
■児童生徒主体の実行委員会の開催
年2回の小中学生サミット実行委員会は、児童生徒が主体となり様々な意見交換や学校間交流がなされた。

POINT2
■小松市小中学生サミット（フォーラム）の開催
各中学校区の取組発表、グループディスカッションを通じて、「いじめをなくすための行動指針」を作成した。

POINT3
■各小中学校独自の取組の活性化
実行委員会や小松市小中学生サミットでの活動をもとに、各小中学校の実行委員が中心となり、各学校独自の取組が活性化した。

■第2回実行委員会
日時：令和3年11月22日（月）
場所：サイエンスヒルズこまつ
内容：◇小中学生サミット前日リハーサル
　　◇小中学生サミット本番に向けた準備

中学校区の取組発表のようす

③小松市小中学生サミット（フォーラム）の開催
日　時：令和3年11月23日（火・祝）
場　所：サイエンスヒルズこまつ
参加者：小松市長（代理：小松市副市長）、小松市PTA連合会、小松市議会議員、市内小中学生、市内小中学校教員、市教育委員会関係　　合計　192名参加
ファシリテーター：兵庫県立大学環境人間学部　竹内和雄 准教授
　　ソーシャルメディア研究会　学生

内　容：◇10中学校区による取組発表
　　◇参加者全員によるアイスブレイク
　　◇小松市ネットアンケートの結果報告
　　◇グループディスカッション
　　◇「小松市 いじめをなくすための行動指針」決定
　　◇意見交流　　◇感想交流

グループディスカッションのようす

市教育研究センター
ホームページ掲載
（小松市　いじめをなくすための行動指針）

事業のねらいに対する成果

- 「より良い人間関係づくり」、特に「いじめ」に関して，小中連携を意識しながら中学校区で工夫した取組を進めてきた。中学校区で「いじめをなくすための行動指針」を考えたり、中学校が小学校に出向いて出前授業を行ったり，「いじめ撲滅宣言」を作成するなど、取組を地域に発信して現状の改善に努めた。小中学生サミット当日には、実行委員により「小松市　いじめをなくすための行動指針」を決めた。当日の様子は、地元のケーブルテレビ「テレビこまつ」で1週間、毎日放送された。また、市教育研究センターのホームページには、当日決めた行動指針を掲載した。テレビ放送、ホームページ掲載のどちらも、児童生徒及び保護者に発信することができた。
- いじめアンケートの結果から、原因の中に「ネットトラブル」「SNS」が多いと分析し、再度インターネット活用のルールについて考えるきっかけとなった。また、それを保護者や地域に発信し、校区全体で取組を進めていくことにつながった。
- 小中学生サミット（フォーラム）後の実行委員の感想には、「みんなで意見を出し合いながら話し合えた。もっと学校を良くしていきたい。」という感想が多くあった。実行委員が小中学生サミットにおいて、課題解決のために主体的に話し合い、取組をさらに進めていくことにつながった。

課題と今後の展望

児童生徒の自治的意識や主体性の向上を図るために，より一層小中連携の活性化に努める。具体的には，サミットのテーマにもとづいて，各学校及び中学校区の諸課題の解決に向け、魅力ある学校づくりを目指していく。その中で、児童生徒が自分の考えを話し合いの中で伝えたり、取組を考えたりする経験を積み重ねていける場を設定していく。そして、「いじめをなくすための提言」をまとめ、児童生徒・保護者・地域とそれぞれに発信することで、小松市全体でサミットのテーマについて考えるきっかけづくりを行うとともに、児童生徒が自分の成長を感じられるのではないかと考えている。

（A4見開き2頁）

青少年いいねット京フォーラム(京都府)

府内の中学生、高校生が、自分達で適切なインターネットの利用を考え意見交換することによるメディアリテラシーと情報モラルの向上を目的として、ワークショップと公開討論会を開催しました。

オール京都で子どもを守るインターネット利用対策協議会
●総務省近畿総合通信局●法務省地方法務局●京都府●京都府教育委員会●京都府警察●京都市●京都市教育委員会●京都府市長会●京都府町村会●京都府市町村教育委員会連合会●京都府私立中学高等学校連合会●京都府PTA協議会●京都市PTA連絡協議会●京都府立高等学校PTA連合会●京都府私立中学高等学校保護者会連合会●公益社団法人京都府青少年育成協会●公益財団法人京都市ユースサービス協会●京都府少年補導連絡協議会●京都市少年補導委員会●公益社団法人京都府少年補導協会●公益社団法人京都府防犯協会連合会●全国大学生協連京滋・奈良ブロック●一般社団法人電気通信事業者協会●一般社団法人安心ネットづくり促進協議会●株式会社ドコモCS関西●KDDI株式会社●ソフトバンク株式会社●任天堂株式会社●デジタルアーツ株式会社●株式会社ディー・エヌ・エー●ピットクルー株式会社●京都弁護士会

事業の概要

①青少年のネット利用に関するアンケート
②事前学習会（ワークショップ）
③フォーラムの開催
・対象・実施地域：京都府内全域
・実施主体：オール京都で子どもを守るインターネット利用対策協議会
・コーディネーター
兵庫県立大学環境人間学部竹内和雄准教授
・ファシリテーター（一社）ソーシャルメディア研究会）
・対象者：京都府内の小・中・高校生とその保護者、教員、青少年ボランティア団体

事業のねらい

スマートフォンなどの情報端末の普及により、インターネット利用者の低年齢化が進む中、青少年がSNSに起因するトラブルや、児童ポルノなどの犯罪被害に遭う事例で、中学生、高校生が高い割合を占めています。京都府でも、児童ポルノ事件の被害者の約4割が、SNSのやりとりから被害に遭うなど、青少年自身のインターネットの使い方や家庭での保護者の関わりについて対策が必要な状況です。
当フォーラムは一連の取組を通じ、青少年と保護者のメディアリテラシー、情報モラルの向上と、インターネットに関わる問題を自分のこととして捉え、「自ら考える」機運の醸成を目的としています。

事業の内容

1　青少年のインターネット利用に関するアンケート（5月～6月）
京都府内の中学生、高校生及びその保護者を対象としたアンケート調査を行い、生徒5,883件、保護者3,682件の回答をいただき、生徒のインターネットの利用時間、用途などが分かりました。
2　事前学習会
日時：令和3年7月26日（月）14：00～16：30
方法：会場とオンラインの併用
参加者：京都府内の中学生、高校生34人(中学4校・高校5校）
コーディネーター：兵庫県立大学環境人間学部准教授竹内和雄氏
ファシリテーター：（一社）ソーシャルメディア研究会
内容：①開催方法
府内の南部と北部に会場を設け、Zoomを使って二つの会場を繋ぎ、南部と北部の生徒の意見交換もできました。
②ワークショップ
上記1のアンケート結果を題材として、健康や人間関係、情報などについてインターネットの利用に関して健康や人間関係、情報などでのメリットデメリットをグループ毎に討論し、意見発表を行いました。
③フォーラムに向けた準備
学びをより深くするために、各学校ごとに、国・自治体、企業など5つの対象に対する提言をフォーラムで発表してもらうことにしました。

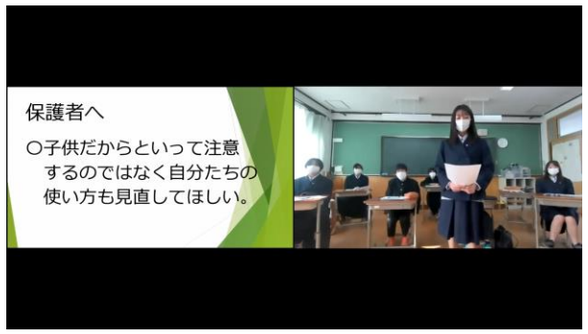
北部会場　南部会場

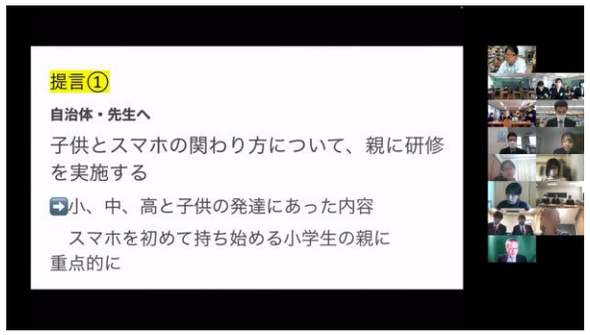
POINT1
アンケートによる実態把握
対策の対象となる中学生、高校生に加え、今年は保護者のアンケートも行いました。
これにより様々な課題が見えてきました。

POINT2
青少年が自ら考える機会に
アンケートにより明らかになった注意すべきポイントを青少年に提示し、インターネットやスマートフォンの適切な利用を自ら考える機会となりました。

POINT3
自立に向けた契機に
アンケートやフォーラムから得られた情報を盛り込んだ啓発動画を作成し、青少年や保護者などに視聴してもらい、ネットの問題を自分事として捉える機運を醸成し、地域の自立した取組に繋げます。

3　令和2年度　青少年いいねット京フォーラム
主催：オール京都で子どもを守るインターネット利用対策協議会
日時：令和3年11月21日（日）　10：00～12：00
方法：オンライン
参加者：京都府内の中学生、高校生24人（中学校3校・高校3校）
コーディネーター：兵庫県立大学環境人間学部准教授竹内和雄氏
ファシリテーター：（一社）ソーシャルメディア研究会
内容：①開催方法
Zoomのウェビナー機能を利用して参加校を繋ぎ、一般の希望者も視聴できるようにしました。
②各校からの提言発表
国・自治体、保護者などに対する提言を、各参加校毎に発表しました。
③パネルディスカッション
参加生徒、保護者、教師、警察の4者による安全なネット利用に関するパネルディスカッションを行いました。





事業のねらいに対する成果

参加者からは「フォーラムを通じて、親や先生、自治体など様々な視点でネットとの関わり方を考えることができたし、様々な視点で考えることの大切さを知ることができた。」「提言を作ることを通じてどうするべきか主体的に考えることができた。」「他の学校の人の意見を聞くことができて考えが広がった。」「自分だけ、先生だけ、保護者だけ頑張っても改善されないと思う。みんなで話し合う場をもっと作れたら良いと思う。」などの感想が寄せられました。パネリストからは「大人から一方的に押しつけるのではなく、一緒に考えていくことが大事だと改めて思った。」「生徒の等身大の意見を受け止める事ができた。」などの感想が寄せられました。
当事業が契機となり、参加者の意識の変容に繋がったものと思われます。

課題と今後の展望

新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度のフォーラムもオンラインで開催しました。参加した生徒の皆さんやパネリストの皆さんから様々な意見が出されましたが、両方から「大人と子どもが話し合ってルールを決めることが大切」という意見が目立ったように思いました。本年度は新たな試みとして保護者のアンケートを行いましたが、フィルタリングなどの機能を理解してなかったり、子どものインターネットの利用状況を把握していない保護者の割合が中学生の保護者の場合は2～3割、高校生の保護者では4割を占めていることが分かりました。
しかしながら、生徒のアンケートの結果からは、中学生と高校生両方ともインターネットでトラブルに遭った場合の相談相手で一番多いのが保護者となっています。親子でインターネットの使い方を話し合ってもらえるように、今後は、青少年に対する対策と合わせて、保護者の皆さんに子どものインターネットの使用に関心を持ってもらうことや、フィルタリングなど子どもを守るための機能を知ってもらうための取組を関係機関と連携して展開していきます。

本事業の問合わせ先
オール京都で子どもを守るインターネット利用対策協議会事務局（京都府健康福祉部家庭支援課）
電話：075－414－4305　FAX：075－414－4586　E-mail：kateishien@pref.kyoto.lg.jp

令和3年度文部科学省委託事業「有害環境から子供を守るための推進体制の構築（ネット対策地域スタートアップ事業）」

青少年のネットトラブル防止大作戦

ひょうごネットトラブル防止ワークショップ（兵庫県）

兵庫県では、県内すべての人々が青少年のインターネット利用に関する基準（ルール）づくりを支援する努力義務や、フィルタリング利用・有効化措置の原則義務化を青少年愛護条例に規定するなどして青少年のインターネット利用対策に取り組んでいる。その一環として、青少年が主体となってインターネット利用の現状への具体的な対応策を考えるワークショップとその活動結果を発表する全県大会「スマホサミットinひょうご」を開催し、青少年が安全に安心してインターネットを利用できるよう、大人と子どもがともに考え、学び、取組の輪を広げる機会としている。

（青少年のネットトラブル防止大作戦推進会議の構成）
- 兵庫県立大学環境人間学部 竹内 和雄 准教授【座長】
- 神戸親和女子大学発達教育学部 金山 健一 教授
- 神戸大学大学院医学研究科 曽良 一郎 教授
- 幸地クリニック
- 兵庫県立神出学園
- 一般財団法人野外活動協議会
- 淡路市ICTクラブ協議会
- 兵庫県ＰＴＡ協議会
- こころ豊かな人づくり500人委員会阪神南ＯＢ会
- 地方青少年本部（北播磨）
- 兵庫県立いえしま自然体験センター
- 株式会社サンテレビジョン
- 日本放送協会神戸放送局
- 株式会社神戸新聞社
- 株式会社朝日新聞社阪神支局
- 株式会社ドコモＣＳ関西神戸支店
- 兵庫県教育委員会事務局教育企画課
- 神戸市教育委員会事務局学校教育部学校教育課
- 兵庫県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課、少年課
- 兵庫県企画県民部女性青少年局青少年課
- 公益財団法人兵庫県青少年本部【事務局】

事業の概要

①ひょうごネットトラブル防止ワークショップ（全2回）
- 参加対象 兵庫県内に在住、在学の小・中・高校生
- 参加者　中1～高2　8校　33名
  （中学生:15名、高校生:18名）

②スマホサミットinひょうご2021
- 会場参加者数 117名、YouTubeライブ配信視聴 129回
- 参加者　ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ参加団体より8校
  ｵﾌﾗｲﾝｷｬﾝﾌﾟ参加者より3名

《実施主体》
- 主催 公益財団法人兵庫県青少年本部、兵庫県
- 共催 青少年のネットトラブル防止大作戦推進会議
- ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ 兵庫県立大学環境人間学部 竹内 和雄 准教授
- ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ （一社)ソーシャルメディア研究会　11名

事業のねらい

①青少年が、安全に安心してインターネットを利用するために必要となる視点等について学ぶワークショップを開催し、自分事として捉える機会を創出する。
②大人と子どもが一緒になって考える全県大会を開催し、青少年が考えた安全・安心なケータイ・スマホの使い方や、効果的なルールづくりのポイントに関する提言を行い、地域での青少年による主体的・効果的なルールづくりの取組を推進する。

事業の内容

1. ひょうごネットトラブル防止ワークショップ

■第1回ワークショップ　　令和3年10月17日(日)　　場所:のじぎく会館
- ○参加者　中2～高2　5校　18名（ 中学生:10名、高校生:8名）
- ○内　容　◇ひょうごケータイ・スマホアンケートについて議論
  - ◇スマホ・ネットの良いところ、悪いところについてグループで話し合い、発表
  - ◇保護者へ、先生へ、企業へ、国・自治体へ、自分たちへ、に関する提言について班で議論し、発表
    - ・保　護　者へ:たまに注意してほしい。自分たちの考えをもっと反映してほしい。
    - ・先　　生へ:強制するのではなく、きっかけを与えてほしい。先生の話を聞くだけでなく、自分たちで話し合いたい。
    - ・企　　業へ:誹謗中傷をなくす取組をしてほしい。
    - ・国・自治体へ:子どもたちがスマホをやめるのは、大人がお酒やたばこをやめるのと同じということを理解してほしい。
    - ・自 分 たちへ:他人に迷惑はかけないようにしよう。

■第2回ワークショップ　　令和3年12月19日(日)　午前　場所:兵庫県民会館
- ○参加者　中1～高2　8校　33名（中学生:15名、高校生:18名）
- ○内　容　◇「青少年からの提言」(①保護者へ②先生へ③企業へ④国・自治体へ⑤自分たちへ)について候補を検討、共有
  - ◇午後からのスマホサミットに向けて役割分担、打ち合わせ、リハーサルを実施

本事業の問合わせ先
公益財団法人兵庫県青少年本部 企画部県民運動担当
Address: 〒650-8567　神戸市中央区下山手通5-10-1　兵庫県企画県民部女性青少年局青少年課内
Tel: 078-362-3142　　E-mail: seishonen@pref.hyogo.lg.jp　　Web: http://www.seishonen.or.jp/

POINT1
■スマホサミットのYouTubeライブ配信
より多くの方がｽﾏﾎｻﾐｯﾄに参加できるよう、YouTubeライブ配信を実施。幅広い啓発につなげつつ、会場観覧も実施したことで観覧者の率直な感想を伺うことができた。

POINT2
■青少年の主体的な取組
ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟやｽﾏﾎｻﾐｯﾄを通じてネット利用の問題点や取組について考え、各学校に持ち帰り実践することで、自らが主体的に取り組むことの楽しさや重要性を認識できる良い機会となった。

POINT3
■大人と子どもがともに考える
ｽﾏﾎｻﾐｯﾄのﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝでは、大人も交えて意見交換を行い、子どもたちの大人に対する正直な意見も引き出すことができた。「大人対子ども」の構図ではなく、「大人と子ども」で一緒に考える重要性を共有できた。

2. スマホサミットinひょうご2021　令和3年12月19日(日)　午後　場所:兵庫県民会館パルテホール

青少年が安全に安心してインターネットを利用できるよう、青少年による主体的なインターネット利用のルールづくりについて、大人と子どもがともに考え、学び、取組の輪を広げる全県大会を開催。
※新型コロナ感染防止対策のため、会場の入場制限を実施し、YouTubeライブ配信
- ○参加者　ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ参加校　8校　33名、ｵﾌﾗｲﾝｷｬﾝﾌﾟ参加者より3名
- ○内　容　◇スマホサミットへの道のり
  - ◇「ひょうごネットトラブル防止ワークショップ」活動発表
    - ・ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟでの内容を踏まえ各学校で行った取組について、各学校3分程度で発表。
  - ◇「人とつながるオフラインキャンプ2021」結果報告
    - ・ｵﾌﾗｲﾝｷｬﾝﾌﾟ参加者と学生メンターによるキャンプの概要説明や、参加者の感想などを報告。
    - ・神戸親和女子大学 金山教授よりｵﾌﾗｲﾝｷｬﾝﾌﾟ参加者アンケートの分析結果について発表。
  - ◇パネルディスカッション
    第2回ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟで議論した「青少年からの提言」案を題材として、保護者代表2名、先生代表8名（参加校引率者）、企業代表1名、行政代表2名、参加生徒全員で、子どもたちのｽﾏﾎ・ﾈｯﾄ利用に関する実態や向き合い方等についてそれぞれの立場から意見交換。
- ○多数共感された意見
  - ★保護者へ　「家族だんらんを増やして！」「お互い納得できるルールづくりをしたい」
  - ★先生へ　「先生と生徒でガチ討論会したい」「デジタルとアナログをうまく融合して活用して」
  - ★自治体へ　「ネットモラル教室を全学年で」「安全性の高いサイト、アプリを作って」
  - ★企業へ　「YouTubeに関連動画を出すか選ばせてほしい」「不適切なコメントを自動的に消して」
  - ★自分たちへ　「遊ぶ時に画面ばかり見ないで」「相手がどう受け取るか考える」

事業のねらいに対する成果

- ・ワークショップやスマホサミットでの取組を通して、「今回やったことを学校に持ち帰って先生や友だちと話していきたい。」「すきま時間にネットを利用してしまうことが多かったが、もっと家族との時間を増やして必要不可欠なとき以外ネットを触る機会を減らしていきたい。」など、スマホ・ネットの問題が子どもたち自身の課題である一方で、子どもたちだけが取り組むのではなく、周囲との関わりを深め、協力しながら、今後どのように向き合っていくかが重要であることを話し合うことが出来た。
- ・スマホサミットのパネルディスカッションでは、大人も交えて意見交換を行い、子どもの大人への素直な意見を引き出すことが出来た。また、子どもと関わりの深い保護者や教員の視点から「一緒に勉強していきたい」などの意見も出された。
- ・子どもたちからは、「大人がスマホに夢中になっていて寂しい。」「子どもだけではなく親も同じルールを守ってほしい。」「先生ももっと勉強をしてほしい。」など、子どもが大人に対して協力を求めていると感じられる意見が多く見られ、大人と子どもで話し合うことの重要性が再認識された。
- ・家庭における親と子どもの「話し合いによるルールづくりの取組」や各学校におけるネットトラブル防止に関する取組を引き続き推進していきたい。

課題と今後の展望

- ・コロナによりGIGAスクール構想が前倒しとなったことから、教育の分野においてICT化が急速に進み、インターネット端末が以前にも増して身近なものとなった。現状では、ネット依存防止対策としてネットの利用時間を減らすことばかりに目を向けがちであるが、「自分で考え、自分で納得することがネットトラブル解決に対するひとつの答えである」というコーディネーターの言葉のとおり、ネットのルールを先生と生徒、親と子どもで話し合うことが、ネット依存防止に向けての近道であり、話し合いの機会を設けるための働きかけを今後も重要な取組として推進していく必要がある。
- ・「家族で1つルールを決めたい」「先生と生徒でガチ討論会したい」「ネットモラル教室を全学年で」などの子どもたちの提言から、自分たちだけで、ネットに関する問題に取り組むのではなく、周囲の人と関わりながら、共に考え共に取り組むことを求めていることが窺える。大人の視点と子どもの視点の両方からネットへの向き合い方を考えていくことが、今後の課題である。

令和３年度文部科学省委託事業「青少年教育施設を活用したネット依存対策推進事業」
青少年のネットトラブル防止大作戦

人とつながるオフラインキャンプ2021（兵庫県）

Off-Line　Camp

兵庫県では、近年社会問題化しつつあるネット依存の防止対策に取り組んでいるが、県内青少年の実態調査では、ネット依存傾向の青少年は10.3%にのぼる。また、コロナによる休校措置及び外出自粛の影響により、さらに深刻化していることが推測される。このような中、青少年のネット依存防止の一環として、「人とつながるオフラインキャンプ」を実施し、日常生活でのネット利用を見直したい県内青少年を対象に、ネットから離れて自然体験等を行うキャンプを実施し、ネット依存の実態や回避方策等を調査・研究し、広く啓発することとした。

（青少年のネットトラブル防止大作戦推進会議の構成）
- 兵庫県立大学環境人間学部 竹内 和雄 准教授【座長】
- 神戸親和女子大学発達教育学部　金山　健一　教授
- 神戸大学大学院医学研究科　曽良　一郎　教授
- 幸地クリニック
- 兵庫県立神出学園
- 一般財団法人野外活動協会
- 淡路市ICTクラブ協議会
- 兵庫県ＰＴＡ協議会
- こころ豊かな人づくり500人委員会阪神南ＯＢ会
- 地方青少年本部（北播磨）
- 株式会社サンテレビジョン
- 日本放送協会神戸放送局
- 株式会社神戸新聞社
- 株式会社朝日新聞社阪神支局
- 株式会社ドコモＣＳ関西神戸支店
- 県立いえしま自然体験センター
- 兵庫県教育委員会事務局教育企画課
- 神戸市教育委員会事務局学校教育部学校教育課
- 兵庫県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課、少年課
- 兵庫県企画県民部女性青少年局青少年課
- 公益財団法人兵庫県青少年本部【事務局】

事業の概要

1．オリエンテーション
2．オフラインキャンプ
3．フォローアップキャンプ
4．メンター事前研修会
5．事業検討委員会（３回）

- 参加対象：日常生活でのネット利用を見直したい、
  原則として県内在住の青少年20名程度（小学５年～18歳以下）
- 応 募 者：４７名
- 参 加 者：小５～高１　２０名
  （小：男３女４、中：男６女５、高：男１女１）
- 会　　場：兵庫県立いえしま自然体験センター
  （姫路市家島町西島）
- 実施主体
  主催　公益財団法人兵庫県青少年本部、兵庫県
  共催　兵庫県教育委員会
  　　青少年のネットトラブル防止大作戦推進会議
  　　一般社団法人ソーシャルメディア研究会
  ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　兵庫県立大学環境人間学部 竹内 和雄 准教授
  メンター　（一社）ソーシャルメディア研究会　10名
  サポーター　　同　　７名

事業のねらい

①キャンプ参加者が、人とのつながりを感じながら、野外炊事やカヌー等の自然体験活動に参加することで、リアルの充実を感じるとともに、自身のネット利用等の日常生活をふりかえり、今後の目標を立てることで自身の行動変容を促すきっかけとする。
②「ネット問題」の背景には、親子関係や周囲との人間関係等リアル社会での様々な問題が原因となっていることから、ネット依存外来を開設している医療関係者による専門的な講義や保護者面談など家族向けのプログラムを充実させ、青少年のネット依存への回避方策について研究を深める。
③県、教育委員会、警察、関係団体、業界等の連携により、教育目的として、ごく普通の子ども達がネットとうまく付き合っていくための方策を考え、他地域でも実施可能なプログラムの構築や周知啓発に引き続き取り組むとともに、必要に応じて、医療や福祉、教育などの適切な支援につなげられる体制を検討し、青少年のネット依存防止対策を推進する。

事業の内容

1．オリエンテーション　　令和３年７月11日（日）　場所：兵庫県立のじぎく会館

時	12	13	14	15	16
分	0 15 30 45	0 15 30 45	0 15 30 45	0 15 30 45	0 15
7月11日	受付（名札づくり）	同席	家族会 ・キャンプの目的、内容 ・講義、質疑応答	同席	
		開会式	ワークショップ ・チームビルディング	閉会式	

家族向けプログラム

①開会式
②家族会
③チームビルディング
④閉会式

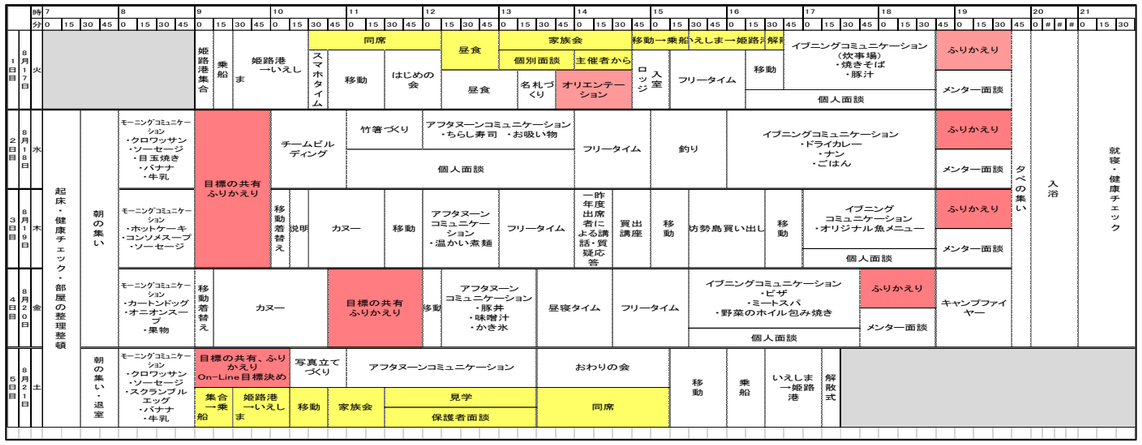
本事業の問い合わせ先
公益財団法人兵庫県青少年本部 企画部（県民運動担当）
Address：〒650-8567　神戸市中央区下山手通5-10-1　兵庫県企画県民部女性青少年局青少年課内
Tel：078-362-3142　　E-mail：seishonen@pref.hyogo.lg.jp　　Web：http://www.seishonen.or.jp/

POINT１
■保護者プログラムの充実
オリエンテーション、本キャンプ、フォローアップの機会を通じて、ネット依存外来を実施している精神保健福祉士が、ネット依存の説明や家族としての子どもへの働きかけの講義を実施した。参加後の保護者アンケートでは、「自分を見直すきっかけにもなった」、「親自身がもっと学ぶ必要があると感じた」という声もある。

POINT２
■スマホ部屋の設置
毎日１時間のフリータイムにスマホやゲーム機を使える状況で「使う」のか「使わない」のか、自分で考えられるよう、スマホ等を主催者で預かり、毎日１時間のフリータイムにネットを利用できるスマホ部屋を設置した。利用者は１日目が４名，２日目が７名、３日目、４日目は１名だった。

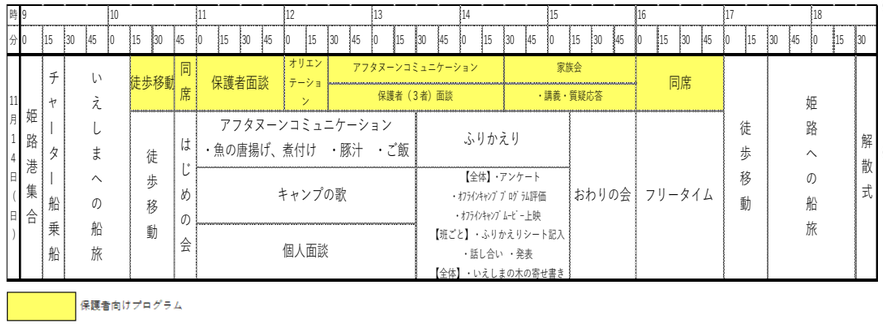
POINT３
■過去の参加者による講話
過去、キャンプに参加した子どもに、参加した経緯やキャンプの思い出、現在の状況、参加者に対するアドバイスを現参加者に向けて話してもらった。現参加者は、現在の状況をより自分事として受け止め、キャンプ後の日常生活におけるｲﾝﾀｰﾈｯﾄとの付き合い方を具体的にイメージすることが出来た。

2．オフラインキャンプ　令和３年８月17日（火）～21日（土）　４泊５日　　場所：兵庫県立いえしま自然体験センター



①アフタヌーンコミュニケーション
②スマホ部屋
③メンター面談
④カヌー
⑤キャンプファイヤー

3．フォローアップキャンプ　　令和３年11月14日（日）　場所：兵庫県立いえしま自然体験センター



①釣り
②ふりかえり

事業のねらいに対する成果

- キャンプでは、参加者が他の参加者や大学生と協力しながらプログラムを体験することで、リアルの生活での楽しみを見つけるとともに、メンターとの“ふりかえり”を毎日行うことで日々のインターネット利用を見つめ直し、行動変容を促すきっかけとすることができた。
- 「ネット問題」は本人だけでなく家族も一緒になって取り組む必要があることから、ネット依存外来を実施している精神保健福祉士による講義や同じ悩みを持つ保護者同士の意見交換など、保護者を対象としたプログラムを様々な機会に実施し、効果的に保護者へ働きかけることができた。

課題と今後の展望

- 今年度は想定以上の申し込みがあり、オリエンテーションにおいて参加者選考を行うこととなった。本キャンプ、フォローアップキャンプでは報道機関による取材も多数行われたため、来年度以降は今年度以上の申し込みがあることを想定し、選考方法や選考後の申込者対応などを見直していきたい。
- 過去にオフラインキャンプに参加したことのある参加者にアンケートをとったところ、キャンプがネット依存対策として有効であることが明らかとなったが、キャンプ後のフォローがあればもっとよいという意見が多くあった。
- より詳しいデータを得るためにも、キャンプ参加者の追跡調査がさらに必要である。

ぎふあおぞらキャンプ（岐阜県）

ネットの利用を見直したい県内の小・中学生を対象に、一定期間ネットから離れ、仲間とともに、体験活動や認知行動療法等を通して、自分の日常生活を見つめ直すとともに、コミュニケーション能力や社会性の向上、インターネットの利用を自分でコントロールする力を身に付け、ネット依存を回避するきっかけとする。

（事業検討委員会）
・岐阜女子大学教授　横山　隆光（委員長）
・医療法人杏野会各務原病院医師　天野　雄平
・ネット安全・安心ぎふコンソーシアム会長
・岐阜県小中学校長会長
・岐阜県PTA連合会副会長
・岐阜県教育委員会学校安全課
・岐阜県健康福祉部保健医療課
・岐阜県精神保健福祉センター
・岐阜県環境生活部私学振興・青少年課（事務局）

事業の概要

1　事業検討委員会の実施（2回）
2　大学生メンター事前研修会の実施
3　ぎふあおぞらキャンプの実施
　プレキャンプ・メインデイキャンプ・メイン宿泊キャンプ・フォローアップキャンプ
4　参加対象：ネットとのつきあい方を見直したいと望む児童・生徒（小学校高学年～中学生）
5　参加者：12名（申込者30名）
6　会場：岐阜女子大学、関市立中池自然の家、岐阜市少年自然の家

事業のねらい

・一定期間、ネットから離れた環境で、仲間とともに体験活動や認知行動療法等を実施することを通して、これまでのネットとのつきあい方や生活習慣を見つめ直すとともに、コミュニケーション能力や社会性の向上、ネットの利用を自分でコントロールする力を身に付けることができる。
・今後のネットとのつきあい方や生活習慣について、新たな目標を設定するための機会とすることができる。
・ネット依存の専門家による講義などを家族向けに実施し、保護者にネット依存や子どもへの対応の仕方などについて理解を深める機会を提供し、参加者たちの生活の基盤である家庭環境を整えることができる。

事業の内容

【プレキャンプ】　令和3年7月24日（土）
・内容
①キャンプ説明会　キャンプのねらいや内容等について理解し、目的をもって参加して頂けるよう説明会を実施した。
②チームビルディング活動　仲間のことを理解し、安心して参加できることを目的に、グループで活動した。
③保護者向け講話　臨床心理士よりネット依存、支援のあり方の話を聞き、ネット依存について理解した。

開講式	キャンプ説明会	昼食	チームビルディング活動	終わりの会
			保護者向け講話	

【メインデイキャンプ】　令和3年10月31日（日）
・内容
①オリエンテーリング　グループでポイントを探しながらゴールを目指した。豊かな自然を感じながら歩いた。
②講話「ネット・ゲーム依存について考えてみよう」　ネットやゲームへの依存がもたらす弊害について学んだ。
③講座「ネットとのつきあい方を見つめる①」　ネットやゲームをすることのメリットとデメリットについて考え、どのようにネットに関わるのか目標を立てた。

開講式	オリエンテーリング	昼食	講話	講座	振り返り	掃除	終わりの会

本事業の問合わせ先
岐阜県環境生活部私学振興・青少年課
〒500-8570　岐阜県岐阜市薮田南2－1－1
TEL:058-272-8238　FAX:058-278-2612　E-mail:c11151@pref.gifu.lg.jp

POINT1
■新たな魅力の発見
野外体験学習や創作活動を通して、新たな魅力を発見し、ネット以外に夢中になれることをつくるきっかけづくりをする。

POINT2
■自分を見つめる
認知行動療法や大学生メンターとの振り返りを通して、自分の日常生活やネットのつきあい方を見つめ直し、新たな目標づくりのきっかけとする。

POINT3
■改善に向けた家族ぐるみの取組
ネット依存傾向にある子の支援には、家族の支えが不可欠。親子一緒になって改善に向けて取り組むきっかけづくりをする。

【メイン宿泊キャンプ】　令和3年11月6日（土）、7日（日）
・内容
①レクリエーション　グループの仲間と協力して活動した。互いにアイディアを出し合いながら取り組んだ。
②グループワーク　エンカウンター活動を行い、話し合いの中で、合意形成を図ることの大切さを体験的に学んだ。
③創作活動　竹とんぼづくりを行った。よく飛ぶ竹とんぼにするために考えながら、一片の竹を削り出していった。
④講座「ネットとのつきあい方を見つめる②」　前回キャンプで立てた目標に対して、「達成できたこと」と「達成できなかったこと」を明らかにし、自分自身のネットとの関わりを見つめ直した。
⑤野外炊事　カレーライス作りを行った。グループ内で役割を分担し、手際よく進めることができた。
⑥振り返り　2日間のネットから離れた生活を送ってみて感じたことを振り返り、次のキャンプまでの目標づくりを行った。

1日目				開講式	レクリエーション	昼食	（参加者）グループワーク	創作活動	夕食	振り返り	入浴 自由時間	消灯
							（保護者）講話					
2日目	起床	掃除	朝食	講座	野外炊事	振り返り	終わりの会					

【フォローアップキャンプ】　令和3年12月5日（日）
・内容
①創作活動　キャンプの思い出として、スプーンづくりを行った。一本の小枝から、オリジナルスプーンを作った。
②講話「ネットとのよりよいつきあい方について考える」　キャンプを通して学んだことを振り返り、これからの目標を記念の葉っぱと共にラミネートした。
③グループワーク　仲間との最後の活動を行った。大学生メンターの進行で、ゲームを行った。

開講式	創作活動	昼食	講話	グループワーク	振り返り	掃除	終わりの会

事業のねらいに対する成果

○キャンプ前後のスクリーニングテストの結果では、ネット依存リスクの数値が全体的に下がる傾向が見られた。特に、参加者2名が「高リスク」から「中リスク」に、参加者1名が「中リスク」から「リスクなし」にそれぞれ改善した。また、他の参加者においても、同一範囲内においてではあるが、ネット依存リスクの数値が下がった。
○参加者同士、大学生メンターとの、グループ活動や体験活動等を行い、仲間と協力して取り組むことの楽しさを実感したり、自然の素晴らしさに目を向けることができたりし、「ネットやゲームがなくても楽しく生活できる」という気づきに至った参加者の様子がアンケートの記述に見られた。
○講話や認知行動療法を通して、参加者がこれまでの自分のネットやゲームとのつきあい方を見つめ直し、つきあい方について具体的な目標をもって生活するきっかけづくりをすることができた。また、目標を意識した生活を通して、自分のネットのつきあい方について、変化を実感することができた参加者が見られた。
○家族とネットやゲームとのつきあい方を話題にして話をするきっかけづくりをすることができた。また、ネットとのつきあい方についての目標を共有し、親子一緒に改善に取り組んでいくきっかけもつくることができた。

課題と今後の展望

事業初年度、そして新型コロナウイルス感染症の影響下の事業実施であったが、一定の成果をあげることができた。今後の事業実施に向け、以下のように考える。
・参加者を対象とした講話や認知行動療法について、より系統立てて実施できるようにしていく。
→事業検討委員会を受けて、実務者レベルでのより詳細な検討の機会を設置し、内容をより充実させていく。
・本事業について、県内関係機関に周知するとともに、成果を広めていくことができるようにする。

（令和3年度　文部科学省委託「青少年教育施設を活用したネット依存対策推進事業」）

つながりキャンプ　（静岡県）

～ネットをちょっと一休み　新しい自分を探しに～

ネットの利用を見直したい小中学生を対象に、野外活動や認知行動療法、カウンセリング等を取り入れた自然体験回復プログラムを実施することにより、ネットの利用を自分でコントロールする力を養い、生活改善のきっかけとする。

【企画運営会議】
委員長　長澤弘子
（(特非)浜松子どもとメディアリテラシー研究所 理事長）
委員　松田直子（(特非)イーランチ　理事長）
板垣　徹（(特非)静岡パソコンサポートアクティビティ 理事長）
松井一裕（医療法人十全会聖明病院 公認心理師）
市川克明（焼津市立焼津中学校　校長）
伊藤賢一（群馬大学情報学部 教授）
北浦　崇（袋井市教育委員会 指導主事）
谷口　明（県PTA連絡協議会　会長）
池谷　浩（県公立高等学校PTA連合会　副会長）
増田純一（公財ふじのくに地域・大学コンソーシアム）
野中凪沙（野外教育スタッフ）
県健康福祉部（障害福祉課、県精神保健福祉センター）
県教育委員会（義務教育課、高校教育課、特別支援課）
県立焼津青少年の家
事務局　県教育委員会社会教育課

事業の概要

1 つながりキャンプ
①プレキャンプ　10月9日（土）～10日（日）1泊2日
②メインキャンプ　11月13日（土）～14日（日）1泊2日
③ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟｷｬﾝﾌﾟ　12月4日（土）～5日（日）1泊2日
・対象 ネット利用を見直したい県内の小学5年生～中学3年生
・実施場所 県立焼津青少年の家（静岡県焼津市石津）
・参加者 プレ12名、メイン11名、ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ13名
・スタッフ　医療スタッフ（公認心理師、作業療法士）4名、大学生サポーター12名、講師（NPO）1名、看護師1名
2 企画運営会議（年間3回）※第2回は書面開催
3 静岡県ネット依存度判定システム
4 ネット依存対策講演会
5 ゲーム障害・ネット依存対策ワークショップ
6 大学生や若者への啓発

事業のねらい

静岡県教育委員会では、携帯電話事業者と連携した講座や、家庭でのネット利用のルール作りを促す啓発事業等を行っているが、スマートフォンの所持率の上昇やネット利用の低年齢化、学校におけるGIGAスクール構想の進展など、青少年を取り巻くICT環境が急激に変化し続ける現状を踏まえ、NPO法人や医療関係者等との連携により本キャンプを実施し、ネットの利用を見直したい小中学生の生活改善を図る。
《キャンプの目的》インターネットやスマートフォンから離れた環境で、幅広い年代の仲間と一緒に野外活動や集団生活を共にしながら、認知行動療法やカウンセリングを通して、これまでの生活を振り返り、ネットの利用を自分でコントロールする力を養う。

事業の内容

1．プレキャンプ　令和3年10月9日（土）～10日（日）《1泊2日》

	午前							午後							夜					
	6:30	7:20	7:40	8:10	8:30	9:00		12:00	13:00	13:15	13:30	14:00	14:30	15:00	16:00	16:50	17:30	18:30	19:30	20:30	21:30
1日目										開講式 オリエンテーション		アイスブレイク	野外活動【大漁ハイク】		自由時間	夕べのつどい	夕食	認知行動療法	入浴・自由時間		消灯就寝
2日目	起床	朝のつどい	朝食	自由時間	認知行動療法	野外活動【カヌー】		昼食	創作活動【かご】 カウンセリング 講座（保護者）						終わりの会						

2．メインキャンプ　令和3年11月13日（土）～14日（日）《1泊2日》

	午前								午後						夜					
	6:30	7:20	7:40	8:10	8:45	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00		14:30	15:00	16:00	16:50	17:30	18:30	19:30	21:00	21:30
1日目							始めの会	アイスブレイク	昼食	野外活動【海釣り】				自由時間	夕べのつどい	夕食	認知行動療法	入浴・自由時間		消灯就寝
2日目	起床	朝のつどい	朝食	自由時間	認知行動療法	創作活動【灯りカバー】 カウンセリング			昼食	自由時間	講　座		終わりの会							

本事業の問合わせ先
静岡県教育委員会社会教育課　青少年指導班　〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号
TEL 054-221-3312　FAX 054-221-3362　E-mail kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp

POINT1
人とのつながり、自然とのつながり
集団生活を共にしながら、ウォークラリー等の野外活動や創作活動など多様な体験活動を実施した。また各キャンプ初日には、アイスブレイクを行うなど、参加者同士がリラックスして参加できるよう努めた。

POINT2
専門性を生かした医療プログラム
カウンセリングや講座を通して参加者・保護者の悩みを聞き、生活改善に向けて助言した。認知行動療法では、個人の振り返りに加え、ゲーム形式でスタッフと一緒に取り組むなど、参加しやすさも重視した。

POINT3
キャンプ経験のある大学生サポーター
県の野外活動スタッフ養成研修を修了した大学生を中心に参加を呼びかけ、プログラムを一緒になって楽しんでもらうことで、参加者が安心して元気に活動できる雰囲気づくりを心掛けた。

3．フォローアップキャンプ　令和3年12月4日（土）～5日（日）《1泊2日》

	午前								午後							夜					
	6:30	7:20	7:40	8:10	8:30	9:00	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	16:00	16:50	17:30	18:30	19:30	20:30	22:00
1日目								始めの会	アイスブレイク	昼食	情報モラル講座		創作活動【写真立て】 カウンセリング		自由時間	夕べのつどい	夕食	認知行動療法	入浴自由時間	クリスマス会	消灯就寝
2日目	起床	朝のつどい	朝食	自由時間	スクリーニングテスト	認知行動療法	野外活動【サイクリング】			昼食	受付	講座（保護者） 振り返り【レゴブロック】			閉講式						

・認知行動療法、カウンセリング、講座は、医療法人十全会聖明病院（県の依存症治療拠点機関）が実施
・フォローアップキャンプ初日の情報モラル講座は、企画運営会議委員長 長澤弘子氏が実施

4．ネット依存対策講演会（令和4年1月10日（月・祝）午後　場所：静岡音楽館AOI）

青少年のネット依存の現状や県の取組等について広く県民に周知することにより、ネット依存への理解を深め、その対策を積極的に考える契機とすることを目的に開催した。

○参加者　保護者、教育関係者、行政関係者など105名
○内　容
・県の取組紹介（静岡県教育委員会、医療法人十全会聖明病院）
・講演「ネット依存をコントロールする」
講師：エンジェルズアイズ　遠藤 美季氏、石徹白 未亜氏
・高校生eスポーツ魅力発信討論会
浜松学芸高等学校eスポーツ部、飛龍高等学校eスポーツ部
進行：(特非)浜松子どもとメディアリテラシー研究所 理事長 長澤 弘子氏

事業のねらいに対する成果

○キャンプ前後のネット依存度判定の結果を比較すると、参加者の大多数で、依存リスクが改善した事例が見られたほか、カウンセリングを通してゲームの優先度が下がり、周囲の対人関係を優先するといった変化が見られた。
○野外活動により、ネットやゲームでは得られない、楽しさや満足感を味わうとともに、集団生活を通じて、基本的な生活習慣、ルールやマナーに対する意識の変化が見られた。
○認知行動療法やカウンセリング等により、これまでの生活や考え方を振り返り、今後の自分を変えるきっかけづくりにつながった。
○家庭における親と子供との関わり方に変化が見られた。

課題と今後の展望

○事務局が大学生サポーターに対し、参加者への指導方法など、求めている方向性を事前に明確化しておくことが重要と感じた。
○一定の期間を空けて1泊2日のキャンプを3回実施することにより、参加者自身のネットやゲームに対する態度の変容が見られ一定の成果が出ているが、来年度は、更にプログラムの充実を図るため、メインキャンプの日程を拡充していくことを検討する。
○3年目で取組が定着してきたこともあり、応募者や大学生サポーターは過去最多となった。今後、今回のキャンプの成果を広く周知・啓発するとともに、引き続き学校や地域、医療・福祉関係機関等と連携し、参加者の募集を図っていく。

令和3年度委託事業「青少年教育施設を活用したネット依存対策推進事業」

セルフディスカバリーキャンプ（Self Discovery Camp）

青少年のネット依存への対策が喫緊の課題となっている状況を踏まえ、青少年教育施設を活用し、ネット依存傾向の青少年を対象に、自然体験、生活習慣の改善、心理療法及び家族支援等のプログラムを実施し、ネット依存対策を図る。

◆受託団体・事務局：国立青少年教育振興機構

◆実行委員会

委員長：樋口　進（久里浜医療センター院長）

委　員：松﨑　尊信（久里浜医療センター精神科医長）

三原　聡子（久里浜医療センター主任心理療法士）

野田　孝幸（静岡県教育委員会）

他　当機構職員3名

◆実施施設　国立中央青少年交流の家

事業の概要

1. メインキャンプの実施
⇒新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止
2. フォローアップキャンプの実施（上記参加者対象）
⇒新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止
3. セカンドフォローアップキャンプの実施
（過年度参加者対象）
⇒新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により日程延期
＜キャンプの概要＞
・対象：ネット依存傾向の青少年
・実施地域：静岡県御殿場市
・実施主体：国立青少年教育振興機構
・メンター：当機構に登録するボランティア等1名
・参加者数：男子11名（16～26歳）
・参加者地域：関東9名、関西2名
4. 企画運営委員会の実施（2回）

事業のねらい

1. 事業のねらい
①ネット依存状態からの脱却（ネット以外の他の活動への興味）のきっかけづくり
②集団宿泊生活による崩れた基本的生活習慣の回復
③仲間と共に活動することによるコミュニケーション能力の向上

事業の内容

【事業に関する研修会等】

1. 参加者・保護者向け事前説明会
・日程：令和3年7月10日(土)　13:00～15:00
・内容：キャンプ概要、過去参加者の講話、留意事項の説明や質疑応答等

2. メンター向け事前研修会
・日程：令和3年7月31日（土）～8月1日（日）1泊2日
⇒メインキャンプの中止に伴い中止
・内容：キャンプの概要、メンターの役割やネット依存に関する基本的知識等

【各事業】

1. メインキャンプ
・日程：令和3年8月14日(土)～22日(日)　8泊9日
⇒新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止

2. フォローアップキャンプ（メインキャンプ参加者対象）
・日程：令和3年10月30日（土）～31日（日）　1泊2日
⇒新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止

本事業の問合せ先
国立青少年教育振興機構教育事業部　事業課
電話: 03-6407-7717　E-mail:honbu-taiken@niye.go.jp　HP: https://www.niye.go.jp/

POINT1

●メンター事前研修の充実

本事業において、メンターの役割は大変重要であり、事業の効果を高めるメンターの構成や確保が重要となる。本年度は、メンター事前研修を1泊2日で実施することや、メインキャンプ前泊の際も研修を取り入れるなど、内容を充実させる予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止となった。

POINT2

●フォローアップの実施

例年は、当該年度参加者を対象にメインキャンプから2か月後に、また過年度参加者を対象に1年後にフォローアップをそれぞれ実施しており、インターネットの使用状況や生活を変えようとした気持ちなどを共有し、現状認識と意識の持続・向上を促す機会を設けているが、今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響によりメインキャンプ及びフォローアップキャンプは中止となった。

POINT3

●日常に繋がるプログラムの実施

キャンプ後の日常生活に繋がるプログラムを取りいれて実施した。 参加者自身の規則正しい生活習慣を取り戻すため、6時起床、22時には消灯とした。また、認知行動療法を通し、現状の生活を見つめ直すとともにキャンプ後の生活や将来の目標を考える機会を設けた。

3. セカンドフォローアップキャンプ（平成26～令和元年度参加者対象）
・日程：令和3年9月18日（土）～20日（月・祝）　2泊3日
⇒令和3年10月30日（土）～31日（日）　1泊2日
⇒新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により日程延期
・内容：

		6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
1日目	10月30日 土								持物検査・受付	はじまりの会	アイスブレイク	野外炊事（カレー）		焚火を囲んで近況報告		片付け移動	入浴	消灯 就寝
										306・307		野外活動棟					浴室	セミナー
2日目	10月31日 日	起床整理整頓	朝のつどい	朝食	認知行動療法	ワークショップ	フリータイム	昼食	おわりの会									
				レストラン	306・307			レストラン										

プログラム企画のポイント

①参加者が規則的な生活時間で過ごせるように、また近況を語り合えるようにゆとりのあるスケジュールとした。
②前回のキャンプ後に、インターネットとの付き合い方が変わったこと等を共有し、キャンプ後に新たなスタートを踏み出せるように、目標を立てられるプログラムとした。
③現在抱えている悩みや葛藤等、セカンドフォローアップキャンプまでの生活の様子を分かち合えるような雰囲気作りを行った。

事業のねらいに対する成果

①認知行動療法及びワークショップを実施し、前回のキャンプから今回のキャンプまでの自身の生活や考え方の変化を振り返るとともにお互いの近況を語り合うことにより、他者の意見も共有することができた。「うまくいかなかった」という参加者の発言も、否定されることなく、分かち合うことができた。最後に、これから1年間で取り組みたいと思うことを各自発表した。
②朝のつどいや野外炊飯など、前回のキャンプで体験したことを思い出しながら、活動に取り組むことができた。

課題と今後の展望

〇事業において大変重要な役割を担うメンターであるが、初心者から経験者まで、各々の背景が異なるため、それに合わせたメンターへの事前研修を充実させていく。
〇本事業で得られたノウハウを報告書やマニュアルに反映させ、地方自治体や関係機関へ発信する。

（A4見開き2頁）

依存症予防教室の開催（沖縄県）令和3年度

デジタル社会におけるスマホ等の使用に関する生徒のネットトラブルが、生活上に大きな課題になっていることや、SNSを介した大麻問題。また飲酒問題が世代に連鎖している現状から、大人自身が依存について正しい知識を身につけ、管理の大切さを学び「子どもに自分を大切にすることをどう伝えるか！」をテーマに子どもの健全育成に向けて各地域で開催する。
内容は、生徒対象と教師・保護者向け依存症予防教室を開催し、急増しているゲーム・ネット依存関連問題を共有して、生徒、学校、地域、関係機関と連携して依存症予防の普及啓発を行う。

（実行委員会の構成）

今成知美	NPO法人ASK 代表
金城明子	ｽｸｰﾙｶﾞｰﾃﾞｨｱﾝﾈｯﾄ健康問題啓発全国連絡協議会公式ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ
大田房子	（一社）おきなわASK 代表理事
村吉政秀	（一社）おきなわASK 副代表理事
仲松靖幸	（一社）おきなわASK 理事
嶺井優美	（一社）おきなわASK 理事
上原拓未	（一社）おきなわASK 理事

事業の概要

①依存症予防教育推進事業
〇生徒向け依存症予防教室
（対象：小学5年生以上・ 中学生・高校生）
〇教師・保護者向け依存症予防教室
（対象：教師・保護者・教育関係者）
・実施場所：県内の学校、公共施設
・実施主体：おきなわASK

事業のねらい

小・中学生の段階で、物質依存や行動依存について正しい知識と、ライフスキルを伝えることで、依存症予防が啓発できる。教師や保護者には、子どもの社会的な現状や課題を共有し、ゲームネット依存問題について、親が知ってほしいことや管理の大切さを学び、地域全体で子どもの健全な育成に向けて、私たちが今できることを考える機会になる。

事業の内容

■依存症予防教室開催概要
沖縄県教育委員会から、各小・中・高校学校長あてに「生徒対象と教師・保護者依存症予防教室の開催」募集を、公文書付きで各地区教育事務所へ発信の協力を依頼し案内した。
内容については、事前に往訪し子どもたちが抱えている問題点や地域の様子、学校側が講習に期待する内容を確認して、内容や話し方を工夫して行った。

生徒対象依存症予防教室　参加数　合計1,510人

校数	開催地	対象	学校名
1	北部	小5-6中1-3年	緑風学園（90人）
3	南部	小学生5-6年	とよみ小学校（31人）
4	那覇	小学生5-6年	高良小学校（268人）
5	ZOOM	小学生5-6年	那覇小学校（45人）
6	中部	小学生5-6年	山田小学校（63人）
7	南部	高校3年生	南部工業高校（74人）
8	南部	小学生5-6年	光洋小学校（158人）
9	南部	小学生6年	津嘉山小学校（131人）
10	中部	高校1-3年	中部農林高校（188人）
11	石垣島	小学生4-6年	白保小学校（53人）
12	石垣島	中学生1-3年	白保中学校（68人）
13	宮古島	高校2-3年	宮古工業高校（96人）
14	中部	小学生5-6年	喜名小学校（52人）
15	ZOOM	小学生5-6年	船越小学校（98人）
16	南部	小学生6年	与那原東小学校（95人）

本事業の問合わせ先
一般社団法人おきなわASK　〒901-0204　沖縄県豊見城市字真玉橋290-1 201号
TEL　098-996-4096　FAX　098-996-4128　E-mail　ask_oki0511@yahoo.co.jp

POINT1
小（5・6年）・中学生・高校性向けの依存症予防教室を希望する学校で開催。「正しい知識とライフスキル」を基本として、ゲーム・ネット関連で心身に与える影響やSNSの危険性について話した。

POINT2
教師・保護者向け教室を開催した。生徒向け予防プログラムを一部紹介し、子どもを取り巻くデジタル社会の危険性について、親自身の依存行動を振り返り、家族全体で予防について考える。

POINT3
コロナ禍に伴い、リアル開催、ZOOM開催や録画視聴など開催状況に合わせて工夫して、多くの方へ正しい知識の普及と予防教育の重要性を伝えることができた。

事業の内容 つづき

教師・保護者依存症予防研修会　参加数　合計 226人

回	開催地	場所	参加数
1	ZOOM	おきなわアスク	28人
2	中部	石川青少年の家	13人
3	那覇	沖縄県立図書館	18人
4	南部	南風原中央公民館	25人
5	南部	喜屋武小学校	26人
6	北部	沖縄県北部合同庁舎	12人
7	石垣島	八重山合同庁舎	10人
8	中部	山田小学校	28人
9	ZOOM	アディシュプラス（株）	66人

教師・保護者依存症予防研修会 受講風景
＜沖縄県立図書館＞

事業のねらいに対する成果

〇小学生の感想文からは
・10代からお酒を飲むと将来依存症になりやすいと聞いて、絶対に飲まないようにしようと思いました。また大人になってもアルコールの量や制限には気をつけたいです。
・ユーチューブやゲーム、好きなことを調べていると3時間ぐらい、ついやりすぎています。ゲームの年齢制限は 家に帰ったら調べようと思います。ランキング系のゲームはついやりすぎてしまうので気をつけようと思いました。
〇中学生の感想文からは
・ぼくのお父さんはビールを飲んでいるので飲みすぎると体に害があることを知ったので、飲みすぎには注意するように話したいと思います。
・依存症になると、誰かを傷つけてしまう。ゲーム依存の人は暴言はいたりついには学校も行かなくなるなんて依存症は怖いと思いました。もしなってしまったら家族に相談しようと思います。
〇高校生の感想文から
・「ネット依存と言われると自分も該当すると思う。最近は時間を減らしているがこれを機にスマホのない生活に慣れてみたい。
・成人しても酒やタバコの使用についてはなるべく気をつける。大切なことにお金を使いたい。
・依存症というのは薬物やアルコールだけでなく、ゲームもあることを知った。薬物も関係ないと思ったけど身近にあることも知った。
〇保護者の感想
・SNSの危険性を身近な問題として知りました。親子で一緒にスマホについて話し合おうと思ういい機会になりました。
・子どもが心配で来ましたが問題なのは自分の発言や行動を直していかないとダメな事に気づかされました。

課題と今後の展望

この事業で、依存症予防啓発の重要性をあらためて感じる。沖縄ではコロナ禍の影響で飲酒がらみの問題は急増している。その環境下で親子共に逃げ場がスマホの長時間使用に繋がっているのではと危機感を感じた。今後も家族全体に向けた依存症予防教育は必要と強く感じる。引き続きこの活動を進めていきたい。

（令和3年度文科省委託事業「依存症予防教育推進事業」）

依存症予防教室

「薬物・ネット・ゲーム依存症とは」新潟・広島教室

保護者や教育関係者、行政関係者、支援者、地域住民に依存症の背景や仕組み、予防や支援の方法についての正しい理解を深めてもらい、自分の問題として受け止めてもらうとともに、参加者を通じ、児童や地域社会に依存症に対する正しい理解をひろげる。

事業企画　検討委員会

小林　桜児　神奈川県立精神医療センター専門医療部長
本間　史祥　子どものネットリスク教育研究会研究員
藤田みどり　茅ヶ崎地区更生保護女性会
加藤　武士　木津川ダルク　代表
近藤　京子　一般社団法人オンブレ・ジャパン代表理事
黒川奈菜子　千葉菜の花家族会代表
松井　由美　NPO法人　薬家連　理事
川上　文子　NPO法人　薬家連　副理事長

事業の概要

①「薬物依存症とは」「ネット・ゲーム依存症とは」というテーマで医療従事者・研究者が講演
②ネット・ゲーム・薬物依存当事者と家族の体験談等伝える
③パネルディスカッションで開催地域の依存症問題の取組みを発信してもらい参加者との交流図る
④アンケートで講演前と後の意識の変容を調査
☆対象者
教育関係者・医療関係者・行政司法関係者・支援者・当事者・家族・地域住民
☆実施地域
新潟・広島・静岡(中止)

事業のねらい

“ダメ。ゼッタイ。”の視点だけの予防教育だけでは、 薬物に手を出してしまった若者やその家族を地域から孤立させ、医療につながる道を閉ざしかねず、地域社会の回復力を逓減させていきます。
また、ネット依存やゲーム依存の広がりは大きく、保護者は大きな不安を抱えています。
そのような中で、薬物依存とネット・ゲーム依存をテーマに「依存症予防教室」開催。
回復の困難さとともに依存症は回復できる病であることを伝え、地域の相談支援体制の重要さへの理解を促し、地域の予防教育資源である保護者・教育関係者・医療関係者・行政司法関係者・支援者・当事者・家族・地域住民等の連携の一助になることを目指す。

事業の内容

依存症予防新潟教室　9月26日(日) 於・新潟テルサ

プログラム　13：30～16：40　　**参加者１０４名**

1　薬物依存当事者の体験談ー新潟ダルク代表
2　ネット・ゲーム依存当事者ーグレイス・ロードスタッフ
3　薬物依存者家族の体験談ー新潟家族会　代表
4　「ネット・ゲーム依存とは-コロナ禍での変化」
　本間史祥　（ネットリスク研究会研究会副代表）オンラインで
5「薬物依存とは-コロナ禍での変化」
　小林桜児　（神奈川精神医療センター医療部長）オンラインで
6　さいがた医療センター副院長が地域の取組み語り、
　上記５人と共にパネルディスカッション

新潟教室　写真　①

依存症予防広島教室　11月28日(日) 於・広島弁護士会館

プログラム　13：30～16：40　　**参加者８３名**

1　薬物依存当事者の体験談ー広島ダルク代表
2　ネット・ゲーム依存当事者ーFISH代表
3　薬物依存者家族の体験談ー菜の花家族会代表
4　「ネット・ゲーム依存とは-コロナ禍での変化」
　本間史祥　（ネットリスク研究会研究会副代表）
5「薬物依存とは-コロナ禍での変化」
　小林桜児　（神奈川精神医療センター医療部長）
6　瀬野川病院こころの研究所々長が地域の取組み語り、
　上記５人と共にパネルディスカッション

本事業の問合わせ先
東京都足立区竹ノ塚　5-18-9-207
ＮＰＯ法人
全国薬物依存症者家族会連合会
電　話：03-5856-4824
yakkaren@ck9.so-net.ne.jp
http://www.yakkaren.com/

POINT1
依存症問題の専門家が登壇
ネット・ゲーム依存問題では、中学校の教諭である研究者が、薬物依存については第一線で支援や治療にかかわっている専門家が登壇し、依存の実態や捉え方や対応策を提供。

POINT2
依存症に苦しんできた当事者や家族が登壇
ネット・ゲーム依存や薬物依存の当事者・家族が、自らの苦しんできた体験を語り、回復の一歩を踏み出すために周りや社会に何をもとめるかを発信。

POINT3
パネルディスカッションで、双方向型の意見交換
パネルディスカッションの冒頭、開催地の支援者・医療者から開催地域での依存症問題の取組状況や課題について語っていただき、そこを議論の入り口に、依存症の予防に何が求められているのか、地域に理解と連携をどう深めていくかを議論。

取り組み内容

開催地	新潟	広島	静岡（中止）
後援団体	市・県・市教育委員会・県教育委員会	市・県・市教育委員会・県教育委員会	市・県・市教育委員会・県教育委員会
広告掲載	新潟日報社	中国新聞	なし
チラシ配布先・依頼先	諸行政機関・保護観察所・保護司会・6病院・8中学校・支援団体等29団体に依頼	諸行政機関・保護観察所・4病院・15中学校・支援団体等24団体に依頼	諸行政機関・保護観察所・3病院・15中学校・支援団体等27団体に依頼
準備協力団体	家族会・ダルク等	家族会・ダルク	家族会・ダルク
チラシ枚数	9,200枚	9,600枚	9,500枚

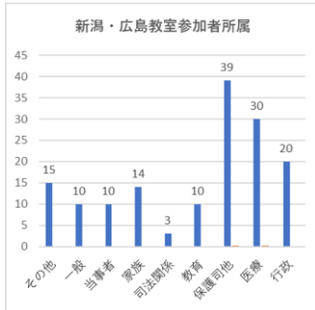
新潟・広島・静岡教室いずれも開催地の県・市と県・市教育委員会から後援を受け、関係機関を通じ依存症問題に取り組む方々や、保護観察所通じ保護司の方々、また市立中学校の教諭と生徒(保護者)の皆さんにチラシを配布させていただくとともに地元新聞に掲載を依頼等多くの団体の協力を得て取り組む。

広島教室　写真　②

しかし、新型コロナウイルス感染拡大で静岡教室は中止に。

事業のねらいに対する成果

「新潟教室」はコロナの緊急事態宣言地域が多数ある中、基調講演される小林先生と本間先生、体験談語られるグレイスロードのSさんがリモートでの出演となったが、映像も語られる言葉も会場にいるかのようで、他4人の登壇者が104名の参加者との間をつなぎ充実した教室となり、「広島教室」は2年ぶりに登壇者7人全員を会場に迎える事が出来、熱気あふれる教室となった。



1、　参加者の所属は　（右表参照）
新潟・広島教室のアンケート回答者151名の内、保護観察所の協力があり、保護司他で39人(25.8%)が参加、司法・教育・医療・行政を加えた参加者は67.5%となり、公的機関の依存症への関心の広がりが感じられた。

2、アンケート回答内容をみても、意識の変容は各設問で明らかに
①「今回の依存症予防教室はいかがでしたか？」 について　93.4%の方が 「大変参考になった」と答え
②　受講前と受講後で、変化が大きかったものの　**1位**：使用障害や依存症とはどういうものか
「よくわかった」 13.2%→45.7%　32.5%増　「大体わかった」合わせると 68.8%→98.7%　29.9%増
2位：依存症の相談や治療を助けてくれる機関について　「あまり知らない」が　33.8%→5.3%　△28.5%
「よくわかった」「大体わかった」合わせると　59.6%→94.0%　34.4%増
3位：使用障害や依存症の自助グループについて　「あまり知らない」が　31.1%→4.6%　△26.5%
「よくわかった」「大体わかった」合わせると　59.5%→95.3%　35.8%増
アンケートには「すべての講師の方のお話が、具体的かつ分かりやすく理解できた」「閉じた空間の学校現場の様子がよく分かった。ネット・ゲームのからくりも聞けて良かった」「依存症は、取り巻く環境や体験が強く影響していることが良く分かった」「今回のような内容をもっと広く社会に流していくべき」「本人のせいではなく、病気との認識を広めることが必要」「いろいろな立場から依存症のことが聞けて良かった」 など多数の声が寄せられた。

課題と今後の展望

昨年度の検討委員会での「一次予防や依存症予備軍へのアプローチにも配慮していく必要がある。そのためにも開催地域の医療関係者や精神保健福祉センター職員等に登壇していただき議論していく工夫を」という提案に応え、今年度新潟ではさいがた医療センター　佐久間副院長に、広島では瀬野川病院こころの研究所 加賀谷所長に、パネルディスカッションの冒頭、地域の依存症の取組みを語っていただいた。その結果、地域の実態が共有でき、より参加者間の連携につながる議論に発展させることができた。
この予防教室に取り組んで4年、依存症問題への取組が関係機関の中で少しづつ進み、教室開催が待たれている土壌が広がっており、予防教室が各地で開催される意味は大きいと感じている。依存症問題の理解を広げ、予防に取り組む方々と地域住民の連携の力となるよう今後も各地で取り組んでいきたい。

（A4見開き2頁）

親子で考えよう！
ゲーム・スマホ・ネットとの正しいつきあい方

本事業では児童生徒におけるインターネット、ゲームに対する行為依存を取り上げ、専門家による全3回の予防対策教室及びその準備のための全5回の検討委員会を実施した。予防対策教室はそれぞれ、小学生、中学生、障がいのある生徒向けに内容をアレンジし、ワークショップを行った。

（検討委員会の構成）

宮田　美恵子
（特非）日本こどもの安全教育総合研究所理事長
平田　敦子
川口市民生委員児童委員協議会主任児童委員
堀　清和
（一社）PORO
板橋　利行
川口市立元郷南小学校　校長
小野　毅
川口市立上青木中学校　校長
濱田　由美
「飯仲いきいきひろば」コーディネイター
後藤　英介
川口市社会福祉協議会　主査

【事務局】(株)シード・プランニング

事業の概要

①依存症予防教育推進事業実施に係る検討委員会(全5回)

②依存症予防教育推進事業
・中学生、保護者向け依存症予防教室
・小学生、保護者向け依存症予防教室
・障がいのある子ども、保護者向け依存症予防教室

事業のねらい

本事業では児童生徒におけるインターネット、ゲームに対する行為依存を取り上げ、地域性のほか、特別支援や外国籍など、様々な背景や事情をもった子どもも視野にして、単に決まりを守らせることや禁止するといった対処的な対応だけではなく、守れない心理的・物理的な根本原因及び現状を分析し、ライフスキルやネットリテラシー、人権教育などとも関わらせながら、実質的な教育計画の策定を行い、依存症予防教室を実施し、今後へつなげるのが目的である。

事業の内容

①依存症予防教育推進事業実施に係る検討委員会
予防教室開催に向け、各分野の専門家による意見交換と内容検討を行った。第2回には臨床心理士による勉強会を実施し知見を得た。また、予防教室の実施会場でもある小・中学校において事前アンケート調査を行い、その集計結果を基に、学年別の依存度の傾向や、家庭環境がもたらす影響等について議論を重ねた。

◆第1回(2021年7月1日)
地域の実態に即した予防教育を実践するために、地域の抱える課題、問題等を検討。
◆第2回(2021年8月25日)
実態を把握した上で、課題解決のため検討委員会において各分野の専門家による議論により、教育内容を策定。意識、知識、現状、対策等に関する困難度を測る調査票の検討。
◆第3回(2021年9月10日)
教育内容を策定
◆第4回(2021年10月21日)
教育内容・調査票を策定
◆第5回(2022年2月28日)(予定)
予防教室の検証

本事業の問合わせ先
株式会社シード・プランニング　〒113-0034　東京都文京区湯島3-19-11 湯島ファーストビル4階
TEL 03-3835-9211 FAX：03-3831-0495 E-mail：oonuki@seedplanning.co.jp（大貫）

POINT1

予防教室開催会場となる小学校、中学校において、事前に全校生徒の保護者対象にアンケート調査を行い、約1,000件の回答を得た。当該結果を基に、ニーズを理解したうえで、当日のレクチャー内容を検討することが出来た。

POINT2

予防教室を2部制とし、1部では保護者と生徒が同室、2部では保護者と生徒が別々の部屋でワークショップを行った。後半のワークショップを保護者、生徒に分けて実施することで、それぞれのニーズに寄り添った内容に設定出来た。

②依存症予防教育推進事業
・中学生、保護者向け依存症予防教室（16名参加）
　日時：2021年11月28日
　場所：川口市立上青木中学校
・小学生、保護者向け依存症予防教室（33名参加）
　日時：2021年12月5日
　場所：川口市立元郷南小学校
・障害のある子ども、保護者向け依存症予防教室（10名参加）
　日時：2021年12月18日
　場所：放課後等デイサービス施設「ちぇりぃくらぶ」

コロナ禍を踏まえ、いずれも対面・オンライン配信のハイブリット方式にて実施した。オンライン配信ツールとしてはZOOMを活用した。
第1回、第2回の対面実施の教室では、保護者は検討委員でもある社会福祉協議会主査より、「言い換え対応表」や「24時間パズル」などのツールを使用したワークショップを、生徒は同日本子どもの安全教育総合研究所理事長より、「宿題が終わっていないけど友人からゲームで遊ぼうと誘われたときの断り方」等、具体的なシチュエーションを想像してもらい、ライフスキルトレーニング法を取り入れたロールプレイング形式のワークショップを行った。第3回は、レトロゲーム体験のワークショップが好評であった。

事業のねらいに対する成果

予防教室終了後のアンケートからの意見を一部抜粋。それぞれ保護者のみに実施。
◆第1回予防教室(11月28日)の感想
・お友達の影響も受けやすいと思うので、学校での児童、生徒全体への教育も必要だと思います。
・小学生の弟妹もいるので、教わったことを伝えてあげたいです。また、家族での約束をしっかり決めて、上手にコントロールしていきたいです。
・悩んでいるお母さんにお話ししてあげられそうです。
・子供と一緒にルールづくりをしたいと思います。

◆第2回予防教室(12月5日)の感想
・ゲームを否定するのではなく、時間の使い方を考えることが大切だと気がつきました。
・親子でゲームやスマホなど利用する家庭がほとんどなのでどう付き合っていくか学べることが出来た。
・学校でも、道徳？学活？の時間などでメディアとの距離感について子供たちに考える機会があると良いなぁと思いました。

課題と今後の展望

今回、単年度の事業としての予防教室は、発達段階と障がいの観点から対象を分け、小学生、中学生、要支援児童生徒において各回30名以内、各1回の開催となった。子どもが自分の現状と向き合い、行動変容へのモチベーションを高めるきっかけづくりに関して概ね達成できたと考えられる。今後は、家庭のみならず、地域の社会教育や福祉施設、放課後子ども教室などの様々な場でも、子どもに関わる大人がコンピュータゲームおよびインターネット依存に対する正しい認識をもち支援できることが大切である。そのため、今回実施した予防教室の動画部分を活用してもらうことが考えられる。

次段階の課題は、行動変容による予防効果を検証するために、対象とする子どもの人数を増やし、依存度の観点を取り入れた予防教室を繰り返し実施する必要がある。そのため、学校などにおいて長期に渡る予防教室を実施することにより追跡調査が可能になると考えられる。